

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
サービス種類	地域密着型サービス		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	令和6年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年11月25日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022&kani=true&jigyouvoCd=2771300346-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和6年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来利用者の個別性介護を大切にすることを目標に運営してきました。個別の生活習慣を守るようにし、日常生活においても、就寝・起床時間などの規則はありません。日々生きがい・やりがいを感じて頂けるように支援しています。食事の楽しさを感じて頂けるように利用者にも調理のお手伝いをして頂き、和気あいあいとした時間を過ごして頂いています。苑で手作りの行事食はとても喜んで頂き毎回好評です。また、各利用者のニーズに応じた個別支援を行っています。日々寄り添い傾聴する事で信頼関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人が運営しているグループホームです。近くに同法人運営の老人保健施設があり、常に連携した運営を進めています。4つの介護理念を基本に「その人らしく、今までの生活を継続する暮らし」を実践しています。手入れの行き届いたプランターに植えられた色とりどりの花を見ながらホームに入ると、フロアには利用者、職員、来訪する家族等と一緒に座り団欒できる大きなテーブルがあり、ゆったりとした雰囲気です。日中、玄関やエレベーターは開放し「利用者の行動を制限しない」という開設時からの考えは職員に引き継がれています。母体からの医療面での支援も充実しており、利用者・家族の安心と信頼を高めています。「食べてもらうことが1番」との考えで手作りにこだわった食事はホームの自慢のひとつです。「わがままを言うことができる環境を提供します」を介護理念のひとつに掲げ、生活リズムも一人ひとりに合わせた支援を行っています。利用者の毎日を「楽しそうに、嬉しそうに」語るリーダーの表情からも利用者の安心な暮らしぶりがうかがえるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすことができよう4つの介護理念を確立している。 職員が行ったサービスで理念の何に当たるかカンファレンスや機会があれば話し合いをしている。	「私たちは、1. 今までの生活リズムを守ることができる環境を提供する。 2. まだ人のために役立っていると思うことができる環境を提供する。 3. わがままを言えることができる環境を提供する。 4. その人らしく生きることができる環境を提供する。」の介護理念を掲げ、その人らしく、今までの生活を継続する暮らしを支援しています。利用者の「自由な暮らし」の継続は、起床時刻を始めとする様々な個別ケアの場面での「理念の実践」により守られています。利用者が毛筆で書いた理念をフロアに掲示しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気が良い日はそとへ散歩、ドライブに出かけ、自然な形で地域と交流するようにする。	地域社会とつながりながら、利用者一人ひとりがその人らしく生き、継続した暮らしができるよう、積極的に地域と交流しています。コロナ禍のため、中止のままの行事もありますが、認知症カフェは再開できました。地域の清掃活動も続けています。月1回傾聴ボランティアも訪問しています。リーダーは、小学校との交流を再開させたいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護高齢課と協力し、認知症オレンジカフェを開催し、認知症を持つ家族参加の支援を行う場を設け、認知症の理解を働きかけたり、相談支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催 家族、利用者、民生委員、地域包括ケアマネジャー、役所などから頂いた意見は前向きに検討し、実施している。	運営推進会議は、市職員、民生委員、地域包括支援センター職員の参加で開催しています。報告内容は、ユニット毎の取り組みを含めて詳細な内容です。家族全員に報告書を送っています。	

己 自部 外		項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の要望に応えるよう、特異な入居依頼があった時などは積極的に市町村担当者に連絡しサービスの向上に努めている。また、困った事例等あれば速やかに連絡相談をしている。	市の高齢介護室担当者とは、解らないことや困ったことがあれば、その都度相談できる関係を築いています。リーダーは「相談したら悩みを聞いてくれ丁寧に対応してくれる」と感謝しています。認知症カフェの取り組みも連携を取りながら進めていきました。コロナ禍のため中止になっていた事業者連絡会グループホーム部会も再開の予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関やエレベーターは開放している。身体拘束は行っていない。職員が人的環境を整え緩和するよう努力している。身体拘束委員を設ける。年3回委員会開催年4回勉強会実施。	日中、玄関やエレベーターは開放し、設立時からの「利用者の行動を制止しない」という精神は、職員に引き継がれています。身体拘束委員会による身体拘束廃止・虐待防止に関する研修を実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。また、毎月法人の虐待防止ミーティングにも出席しています。リーダーが虐待防止責任者養成研修に参加する予定もあります。リーダーは、職員の話をよく聞くことを心がけて、職員のストレスへの配慮を行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の虐待防止チームに参加。施設内での介護行為に対して、定期的に検証し、カンファレンスで話し合っている。 法人内の研修に参加している。 年3回委員会開催年4勉強勉強実施		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体をもって対応可能。研修参加も行っている。家族からの相談があれば速やかに進めていく体制は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に、本人、家族に施設を見学してもらい、サービスの内容・料金の説明をしたり疑問や不安などがあれば話し合いを行い、納得してから契約している。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている 施設内には意見箱を設置し、無記名で投稿出来る様になっている。苦情を受けた時すぐに対応できる様に苦情受付書類を準備している。問題点を明らかにし、カンファレンス、申し送りで周知している。又、市町村にも報告を怠らないようにしている。	面会に来る家族は多く、面会時には、その都度声掛けして、利用者の状況を報告し、要望や意見を聞くようにしています。ホーム便り「ガーデンの四季」は定期的に発行し、利用者の笑顔が溢れる日常を分かりやすく掲載しています。リビングに設置している公衆電話から、家族に電話をかける利用者もあります。リーダーは「自分の親を入居させたいホーム」をめざすことを職員に伝えています。入居時、親の呼び方に「ちゃん付け」を望んだ家族が、介護関連の研修を受けた後に「姓」呼びを希望し、それに応じたケースがあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている できる限り毎月1回全員出勤の勤務を組み、その時に業務・介護カンファレンスを実施している。その場では、職員が自由に発言できる環境を作り、決まったことは全員で実行するようにしている。	月に1回、職員全員が出席する会議で、研修、業務カンファレンス、利用者一人ひとりのカンファレンスを行っています。欠席する職員は、事前にリーダーへ意見を伝え、日常的にも意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしています。今年4月よりIT化に取り組み、情報の伝達・収集がタイムリーになりサービスの向上に繋がっています。 法人のハラスメント委員会による職場環境の改善取り組みも積極的で、職員が意見を言いやすい工夫がされています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護処遇改善、特定処遇改善に取り組み、給料水準の向上、介護用具を購入し、職場環境を整え各自が向上心をもって働けるように努力している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・法人外の研修に参加してもらっている。研修後に、報告書を出してもらっている。月1回のカンファレンスでは、書記を順番に回るようにしている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム・支援事業所と定期的 に会合の機会を持ち、意見交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の程度によるが、施設見学、または、施設からサービス利用者先へ訪問するなどし本人とゆっくり面談するようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは見学に来た際や、相談を受けた時に困ったり、悩んだりしていることを受け止められるように拝聴している。私たちが援助できることを具体的に説明している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、必要に応じて情報を提供している。対応できない時は、それぞれの専門職に協力を依頼し、サービスの提供に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんだり、料理をしたり、共にするという意識している。職員は疑似る家族として、入居者に尊敬の念をもって接している。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時、雑談をしながら入居者との楽しい過ごせるように支援している。又近況を話しながら今後の方向性を話している。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚・近所の方が面会に来た際は、お茶を出し、部屋でゆっくりと話などをし、過ごしてもらっている。 食事の下ごしらえ、洗濯たたみ等利用者のできることをしてもらい、まだ人の為に役立っていると思ってもらえる様環境作りをしている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者に大切なことと理解し、支援に努めています。 法事や病院受診の帰りに自宅に帰る利用者や定期的に週末外泊する利用者がいます。ドライブの際は、利用者の馴染みの場所をコースに取り入れています。 食事の下ごしらえや後片付けをしている利用者の表情は、理念のひとつにある「人のために役立っていると思うことができる環境を提供する」支援により、生き活きと輝いています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度・性格・生活過程などを考慮し、スムーズに関わることが出来る様に、支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関などに入院しても、必要に応じて家人と面談をし、方向性を話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や日々の話の中で、本人のニーズ等を見つけ出すようにしている。日々の関わりの中で気づきや発見は随時口頭で伝え共有している。、又家族からの話も大切にしている。得た情報を職員間で共有・ケアプランに反映している。	「寄り添うケア」に努め、職員は利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、気づいた事や新しい発見は、記録に残し、職員間で共有しています。リーダーは、話しを否定しないで最後まで聴くことを職員に伝えていきます。 毎月の会議では、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、各職員の気づきを出し合い、課題があれば解決策を話し合っています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族・サービス事業所から得た情報を考慮し、ケアプランを作成している。 24時間の生活パターンを大切に介護サービスを提供している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居の日々の状態を観察し、その中で気づいたこと、状態の変化を主治医・看護師・ケアマネ等に報告し、情報収集を行い、観察項目を決定し、ケアプランに反映している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成している。タブレット申し送りで情報共有し、チームケアに取り組んでいる。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは3か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。厚生労働省が推進しているLIFE(科学的介護情報システム)を導入し、根拠に基づいた質の高いサービス提供を目指しています。計画作成担当者は「本人の意向も家族の意向も活かせる介護計画」を心がけて計画作成にあたっています。職員は、介護記録がIT化された後も、定例文利用で簡略化されることのないよう、自分の言葉で書くようにしています。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットに日々の様子やケアにの实践を入力し、職員間で情報共有している。タブレット入力事項は介護計画に反映させている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の場合、原則は家族に同行してもらうが、キーパーソンが闘病中・遠方などの場合は、施設職員が同行し、援助している。	介護記録がより充実し、認知症チームケアのさらなる充実に繋がるのが期待されます

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		施設が入居者の地元であるため、親戚・知人・友人等が頻繁に面会に来ている。地域の小学校の交流イベントに参加していたが、コロナ禍で中止になり、現在も中止		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には1回/3～4w外来主治院情報を提供し受診している。それ以外にも状態の変化があれば主治医に相談、往診、診察を受けている。専門的な治療が必要な時は家族に連絡、希望の病院を聞き対応している。	月1回の往診があります。日常の入居者の変化や伝えたいことを記録し、情報として主治医に提供し、職員にも知らせ共有をしています。夜間に体調の変化があるときは、法人病院の救急看護と連携し、素早い判断と対応をすることができ、家族とともに職員の大きな安心に繋がっています。看護師も常勤しており、体調の把握を始め介護職との連携も密で入居者の日々の暮らしを全員で支えています。入居前のかかりつけ医の継続受診も可能です。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護婦が常勤しているで、その都度相談し利用者の健康管理に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時、入院先の主治医の所見、家族の意向等を確認し、退院後の方向性を決めている。また、医療機関と情報を交換したり、訪問したりその後の相談をしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、・外来主治医・看護師・ケアマネ・介護職員と定期的に話し合い、将来的なことを含め方向性出している。毎日の申し送りや月1回のカンファレンスなど全員に周知している。希望があれば、看取りの対応も実施している。今後は、終末期のあり方について、家族。本人の望む事に向き合えるよう職員教育、を必要がある。	重度化したときは家族、主治医・看護師、各職種が集まり、これから起こり得ることを伝え家族の思いに寄り添いながら方針を決めるようにしています。看取りも行っています。看取り後の振り返りカンファレンスを大事にし、次の支援に活かすようにしています。看取りに入る不安も、振り返りを通し、前向きに支援に取り組んでいます。参列者を前にした告別式の挨拶の中、「コスモスで良かった」と、家族から感謝の言葉を頂くこともありました。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、いつでも対応できるように提示している。緊急時は法人内医師や看護師に相談できる仕組みがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の施設課の下、定期的に避難訓練を年2回とコスモスガーデン独自の災害訓練も適時実施している。連絡網を作成し、警察・消防署などの連携を図りながら、利用者の安全確保できるように努めている。業務継続計画作成	法人の定期的な避難訓練に加え、ホーム独自の災害訓練も適時実施しています。備蓄は飲料水を始め、レトルト食品や日用品を揃え、一覧表を作成してリーダーと調理担当職員で期限を守り管理しています。リアルタイムの台風等気象情報を元に備品を増やしたり、常に災害に備えています。防災マニュアルは、地震・津波・洪水などを想定、連絡手順も夜間・休日用を別にそれぞれ作成しています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴える事の出来ない入所者にも可能な限りトイレで排泄してもらえる様にトイレ誘導を行っている。失禁が多い方も排泄パターンをアセスメントし、カンファレンス、申し送りで周知している。見守りが必要な方には、自尊心に配慮し、サポートを行っている。	一方的な言葉かけをすることはなく、利用者に伝わる言葉選びを心がけ、コミュニケーションを大切に介護を実践しています。また、同性介助を望まれる利用者には希望に添った介助ができるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護理念に揚げ実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	介護理念に揚げ、入居者の24時間に職員が合わせ介護サービスを提供するように周知している。職員の都合や時間で介護しないように指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と家族の話を聞き、実施している。理容時本人の望むヘアスタイルを伝えている。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理・後片付けなど職員と入居者が一緒にする事を心がけている。食事の際も入居者の間に入り楽しい雰囲気です。食事ができるような話題を提供している。食事介助が必要な入居者もいるので、さりげなくサポートするようにしている。	ユニットで食事作りをする職員を手伝い、包丁をもって材料を切る人、野菜の皮むきをする人など、利用者はそれぞれの役割を担っています。食事時間に面会に来た家族にも、手作りの料理の匂いや温かな食事を楽しむ様子が好評です。風呂敷を開ける喜びを味合える弁当の日もあります。正月やイベントではアルコールを楽しむこともあります。誕生日には希望のメニューを提供、手作りおやつ再開も考えています。猛暑の続いた今夏も、IT導入で数値化された水分補給量を看護師が確認し、ゼリー状にしたり、好きなジュースを提供するなど、必要な水分を摂取して元気に過ごすことができました。食事前の体操・口腔体操も行っています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	木島病院の管理栄養士から、必要に応じて相談、指導を受ける体制をとっている。水分に関しては入居者の好みの飲み物を何時でも飲めるように冷蔵庫にはジュース、牛乳など常備置いている。むせ込みが多い入居者にはゼリー状にして提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。自分で出来ない方には、個別の口腔ケアを実施している。毎週1回歯科の往診あり、家族本人の希望があれば、歯科衛生による口腔ケアを実施している。		

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴える事の出来ない入所者にも可能な限りトイレで排泄してもらえるようにトイレ誘導を行っている。排泄アセスメントを行い排泄パターンを把握しカンファレンス、申し送りで周知している。見守りが必要な方には、自尊心に配慮し、サポートを行っている。	排泄状況に変化が見られたときは必ずアセスメントを行っています。おむつからトイレ排泄に改善できたこともあります。状態変化によりトイレでの排泄が困難になった際は、感染のリスクにも十分配慮した排泄ケアを行っています。排泄委員会でのおむつやパットの機能性を学び、本人や家族の負担軽減に繋がるようにしています。ひとり一人の尊厳を大切に支援しています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な利用者には主治医と相談し、本人に合った下剤でコントロールをしている。状況に応じ、看護師に報告し、調整も行っている。運動や水分、食べ物も入居者の嗜好に合わせ排便しやすい様に支援している。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番など可能な限り平等に入浴をして頂く。入浴が嫌いな入居者や、便失敗した入居者に関しては、時間に関係なくその時の状況に合わせて入浴をしてもらっている。	週2～3回の入浴を基本とし、日曜日は予備日にしています。音楽をかけて浴室まで行ったり、チケットやクーポン券を作って「お得感」を出すなど、楽しい雰囲気作りを工夫しています。石けんやシャンプーなどはそれぞれに好みの物をつけています。湯船につかる事が難しい人はシャワー浴で清潔を保っています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めていない。一人ひとりの生活パターンに合わせて支援している。日中も入居者の体力的なものも考慮し、状態に合わせて休息をもらっている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診察で処方された内容について、確認できるように保管している。又変更時は特記事項として伝えている。作用、副作用についても説明してケア出来る様にしている。		

自己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや料理参加など家事活動に参加できるように心掛けている。習字や塗り絵が得意な入所者には作品を掲示板に飾り皆に見える様にしている。気分転換に外へドライブに行ったり歌を歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などは庭でお茶会をしたり、法人内を散歩したりしている。帰宅要求から外に飛び出す入居者もいるが制止するのではなく付き添い見守り、状態を見て声掛け、一緒に帰るようにしている。水曜日は近隣にドライブに出掛ける。	ホームの玄関前には手入れされた木や花があり、花見やお茶会を開いて、おやつの時間を過ごすこともできます。水曜日は法人の車を予約し、買い物に出かけたり、二色浜や国華園の菊人形を見に行くこともあります。予定していた日程より桜の開花が遅かった今年は、桜の木の枝に造花を飾り付けるなど、ひと工夫した花見を楽しみました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持つ事で安心する入居者には、家族に許可を得て本人に所持して頂けるようにしている。また、希望者は施設で預り金を置いている為、買い物したい時は買う事が出来る様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はしたい時は、公衆電話や携帯電話からいつでもかけれる様に支援している。又、手紙や年賀状を出せる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごされていると、食事の匂いや、食器を洗う音などの生活音が聞こえてくる。居間のテーブルやトイレなどに季節の花を飾り季節感を感じてもらう様にしている。	明るいフロアには入居者が一緒に囲める大きなテーブルがあり、食事をしたり、本を読んだりして自由に過しています。腰を掛けられる小上がりのスペースは、炬燵も置ける広さで、横になってゆったり休むこともできます。壁には入居者が書いた法人理念が掲示されていたり、皆の力作が飾られたりしています。「本人に似ている」と退居した家族から贈られた置物は、居室入り口前の棚からいつも笑顔で見守っています。	

己 自 部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者 同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をして いる	居間と居間の間には観葉植物を置き、落ち着 けるようにしている。また、自由に休んだり気の 合った入居者同士おしゃべりしたり、思い思いに 過ごされるよう、ソファを置いている。また、 畳コーナーも設置している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学時や入居契約時本人の馴染みの家具や 使い慣れた品物などを持って来てもらえるよう にお願いしている。	テレビ台にもなる使い勝手のいいテーブル(小物 入れ付)はホームで設置、自分が作った作品を 自由に飾る利用者もいます。居室入り口には家 族が用意したのれんを掛けて個性を出し、わか りやすくしています。大きく書いた自分の名前や 好きな色紙を自由にレイアウトして入り口を飾る など、その人らしさが表れた居室づくりがされて います。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を 活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	入居者の出来る事は時間がかかっても待つこ とは大切にしている。又、普段は出来るがその 時の状態で出来ない時もあるので、その時に は、プライドを傷つけないようお手伝いしてい る。入居者が自然な形で家事手伝い等に参加 できるような環境作りを心掛けている。	